

令和 4 年度 ヨシ原再生施工



令和 5 年 3 月

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

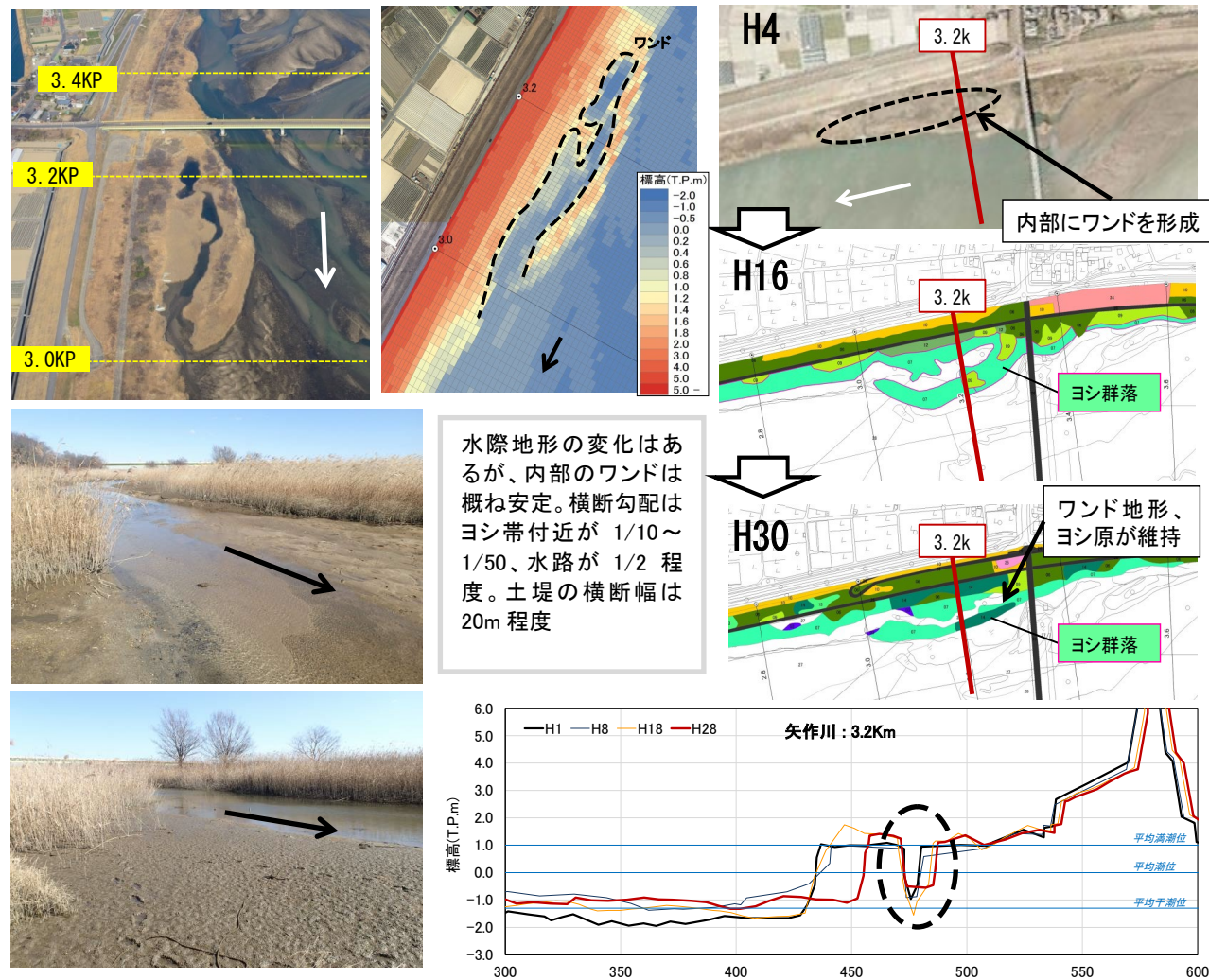
重要種に係わる情報については、原則非公開とさせていただきます

■矢作川ヨシ原再生 6.8k 左岸ワンド型施工【概要】

- 令和4年度において、6.8k左岸部（棚尾橋下流）において、ワンド型のヨシ原再生施工を実施。
- 良好な環境とされる棚尾橋下流のヨシ原（ワンド型）の物理環境・生物環境を参考としたワンド型施工により、地形侵食の低減やハゼ科魚類や鳥類の良好な生息場となることが期待される。

■棚尾橋ヨシ原環境の評価（矢作川 3.2k 右岸付近）

- ワンドは、本川と下流側で水域が連続し、潮の干満によって水位が変動（安定した冠水頻度）。
- ワンド内部には、クリーク（水路）、ヨシ帯付近の浅場等が形成され、底質は砂質、シルト質が場によって異なる状況。ワンド周辺には広くヨシが生育し、ヨシ原が過去から長期的に維持。
- ヨシ原が長期的に維持されている要因としては、河口からの距離条件（干満、塩分による他植生との競合等）や河道地形との関係に加え、内部にワンドが存在することでヨシにとって良好な水分（伏流）や底質条件が確保されていると推測。
- ワンドと本川部の間には土堤が形成され、大規模出水時にはワンドへの外力低減機能を有す。
- 生物面では、ハゼ科魚類やヨシが生育しており、砂から泥質まで多様な底質やヨシ帯の根元周辺が生息場として機能していると推測。また、ヨシ帯によって周囲から隔離されたワンド環境は、鳥類にとっての隠れ場として機能していると推測。

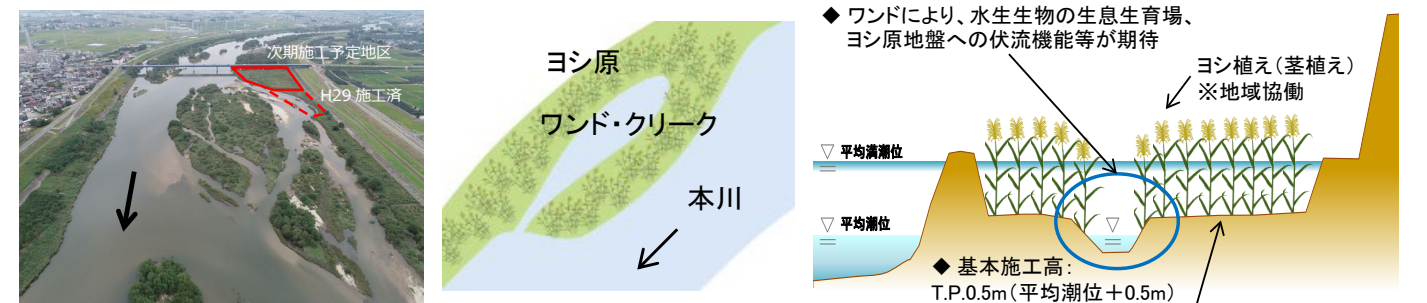


■ワンド型施工により期待される効果

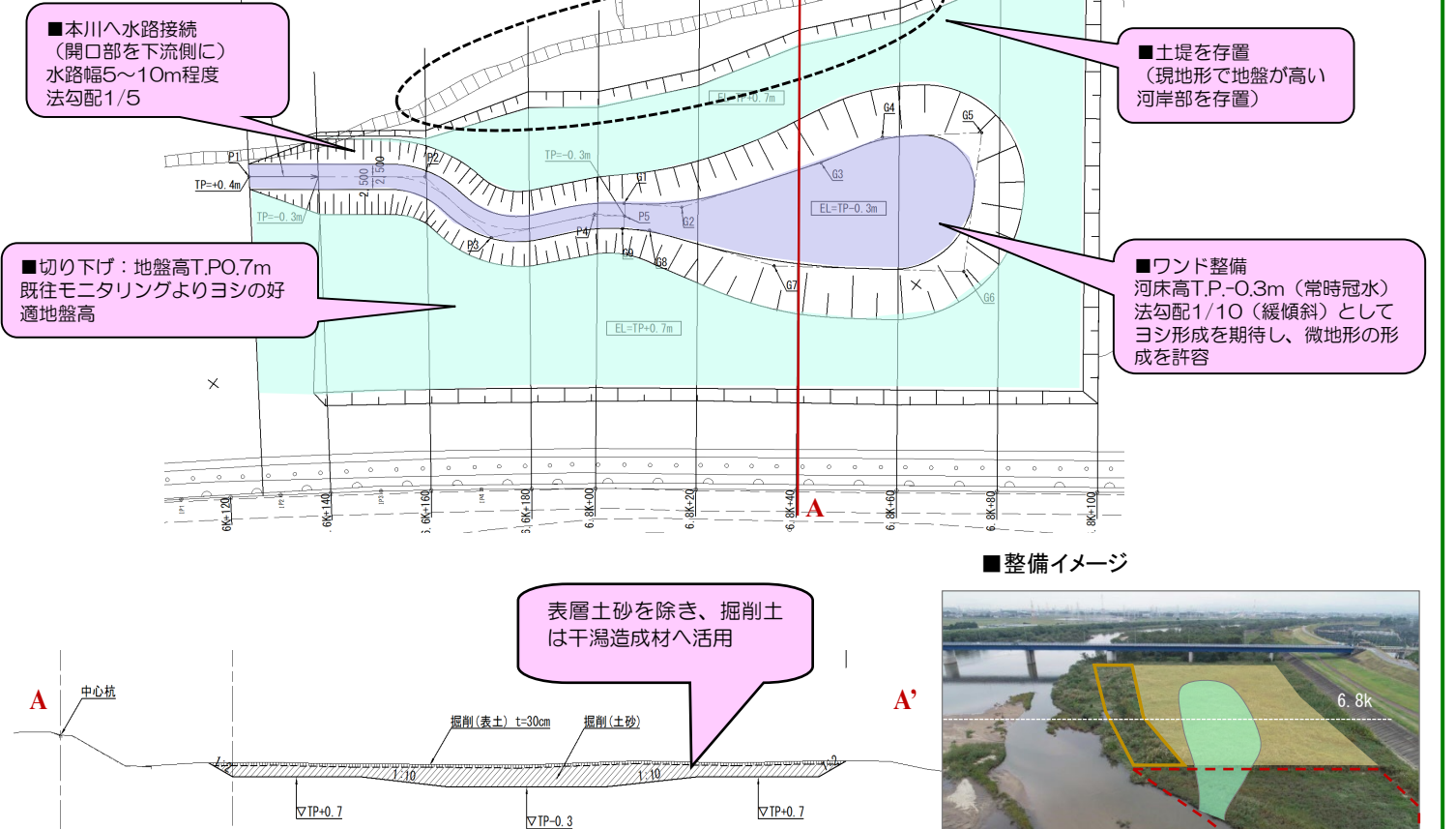
- ワンド型施工により、ヨシ帯への洪水外力が低減され、課題である地形侵食に対する対応策となる
- ワンド等緩流環境が形成されることで、ヨシ生育にとって好適な水分条件や底質環境となり、ヨシが生育しやすく、また水生生物（ハゼ科等魚類）や鳥類の良好な生息場となる

■次期ヨシ原施工区（6.8k 左岸付近） 施工方針

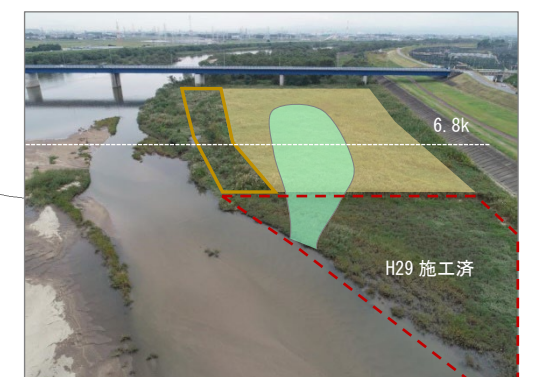
- 整備形状は、本川との間に地盤が高い土堤を残すことでワンド域への洪水外力を低減させ、侵食防止を図るとともに、下流側で本川と接続した形状とすることでワンド域が冠水しやすくさせる
- 平面形状は、できるだけシンプルな形状とし、整備後の地形変化（自然の応答）を許容させる
- 横断形状は、従来のヨシ原再生の高さを基本とし、中央に水路（クリーク）を整備する
- 上記の物理環境（設計条件）は、棚尾橋ワンドの物理条件等を参照して設定



■施工計画



■整備イメージ



■整備前後の景観

施工前（R4.6撮影）



施工直後（R5.2撮影）



■整備後の状況

施工直後（R5.2 撮影）

（ワンド下流側からの全景）



（本川側からの全景）



（ヨシ根土撒き出し箇所）

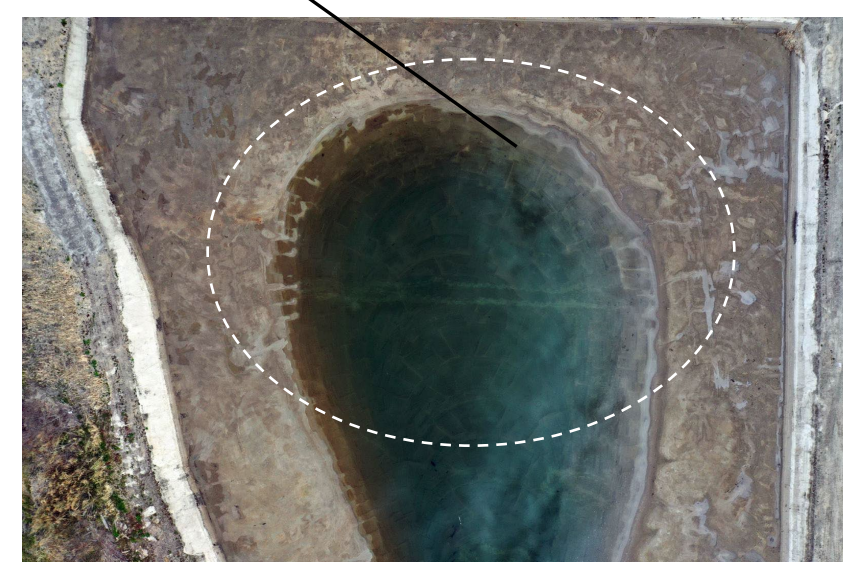


（地盤表層の状況）



転圧はせず、自然な凹凸を形成

（ワンド）



法勾配 1/10 程度の緩やかな浅場を形成